

71 期生 入学準備期における学習上の留意点および推薦図書

(令和6年3月3日)

国語

本校1年次の国語には「現代の国語」と「言語文化」がある。「現代の国語」は、実社会に生きて働く国語の能力を育成する科目である。評論や資料を的確に比較・精読する力を始めとして、筋の通った意見文を書く力、要約する力、他者と協働的に話し合う力、効果的にプレゼンテーションをする力など、さまざまな言語能力を総合的に育成していく。「言語文化」は、上代から近現代につながる日本の言語文化への理解を深める科目であり、「古文」「漢文」「近現代文学」の3領域からなる。1年次の授業では、古文単語テストや古典文法の小テストなどをこまめに行い、確実な知識の定着を図る。こつこつ積み上げていくことになるので、日々の学習習慣を何よりも大切にしてほしい。

いずれの科目においても、文章を読んでわからない言葉に出会ったら、自分で調べようとする姿勢が大切である。そこでまず、国語辞典・古語辞典・漢和辞典を用意して欲しい。必ずしも紙の辞書である必要はなく、電子辞書やWeb辞書アプリを活用してよいが、インターネット検索ではなく信頼性のある出版社の辞書と同等のものを用意しよう。以下に具体的な入学準備期における留意点を記す。

「現代の国語」新書（例えば岩波新書 講談社現代新書 中公新書 ちくま新書など）の中から興味のある分野の本を選び、複数冊読んでおくこと。「言語文化」の古典分野できるだけやさしい古典の原典に接しておくこと（現代語訳のついた宇治拾遺物語・平家物語・徒然草などを読むとよい）。また教科書の入門部分を繰り返し読んでおくこと。※古文・漢文は、入学後に語法・文法の参考書を配布する予定なので、事前に準備しなくてよい。

地理・歴史

<地理総合>

地理は、地表のさまざまな事象を総合的に理解する学問である。本来は、野外に出て景観を観察しながら、それぞれの事象の説明をしたり、分析・考察したりしたいところであるが、時間の制約等があるため、教室内で資料集や文献等の写真を用いて学習する。唯一、野外での授業として1学期中間考査後に地理実習があり、一日かけて東京都心部を歩きながら景観観察等の課題を行う。高校の地理の学習では、地理的事象の特色と地名を単に暗記するのではなく、それぞれの事象とその背景にある自然的・人文的要因、地理的位置をあわせて論理的に理解することが必要である。したがって授業では、地理的な理解はもちろん、歴史や地学など他の分野の知識も生かしながら総合的に学習することが求められる。新入生諸君には、春休み中から、旅行に出かけた際には行った先の景観を意識して観察したり、旅行先やニュース等で聞いた地域等を地図帳で確認したりする作業をこまめに行い、地図と親しむ習慣をつけてほしい。

<歴史総合>

「現在」からより良い「未来」に向かって進んでいくためには、「現在」に至る「過程」を深く理解する必要がある。過去のさまざまな出来事が、時間の流れの中でどのように関連しているかを考え、私たちが生きている世界の成り立ちをより深く理解しようというのが、歴史を学ぶという営みである。

歴史総合では、現在のさまざまな問題を念頭に置いて、日本と世界の近代史のなかから、そうして問題が生まれた所以と解決の手がかりを探っていく。授業では図説やさまざまな資料を用いて、歴史を考察する。事項の羅列ではなく「考え方」を理解し、自分の分析によって「歴史」を描くことが求められる。

このような学習を進めていくための取り組みとして、以下の二点を提案したい。①中学校の学習事項を再確認すること。②歴史関係の書籍を積極的に読むこと。あえて①を提案するのは、「考える」ことの質をあげるためには、素材としての確かな知識が大切だからである。その上で自分の思考の幅を広げていくには、②が有効である。歴史については、一般読者を対象とした個性のある概説書がいくつも刊行されている他、各社の新書・選書などに安価ですぐれた内容の本がたくさんある。当時書かれた文献で、文庫本などでも読むことができるものもある。それらの例をあげておくので、時間のある春休みに、少し背伸びをして本を読んでみましょう。

【参考図書】

川北稔『砂糖の世界史』（岩波ジュニア新書）、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波新書）：近代・現代の世界史と、歴史の全体像をとらえる方法を考えてみましょう。久米邦武編著、大久保喬樹『現代語縮訳 特命全権大使 米欧回覧実記』（角川ソフィア文庫）：明治政府の首脳に、当時の世界はどのように映ったのでしょうか？ 原本は大部なので縮訳版で。星野博美『コンニャク屋漂流記』（文春文庫）、こうの史代『夕風の街桜の国』（コアミックス）：ある個人の人生や家族の歩みから、歴史と現在、歴史と個人のかかわりを考えてみましょう。

数学

本校の1年次の数学には「数学Ⅰ」と「数学A」の2つの科目があり、それぞれ別の教員が担当します。「数学Ⅰ」は教科書1章「数と式」から、「数学A」は教科書1章「場合の数と確率」から学習します。数学の学習では、教科書や参考書で解き方を探したり、教員が説明するのを待ったりするのではなく、今まで学んだことをもとにして、どのように考えたらいいのか、どのようなことが成り立つのかなどと、自分で頭と手を動かして考えていくことが大切です。考えを深めるにあたってはコンピュータの利用も助けとなることでしょう。考えることを面倒くさがって公式や解き方を覚えることに終始してしまうと、後になって余計に苦勞することになります。単に公式や解き方を覚えるのではなく、なぜそれが成り立つのか、他の見方や考え方はないのかなどを常に自分で考え、理解することを心がけてください。

ただし、数学は学んだことをもとに新たなことを考えていくので、知識を身につけた後はある程度習熟しておかないと、新たなことを考えていくことが難しくなります。授業中だけでは習熟する時間は足りないため、自分で演習をする習慣をつけましょう。また、中学校までにすでに学習した内容は入学前にしっかりと確認しておきましょう。

加えて、数学の解答は単に答の数値があっていればよいということではなく、途中の経過、考え方を書くことが非常に大切です。自分の考えた道筋をしっかりと文章で書けるようにしていきましょう。解答を導くまでの道筋を記録する習慣は、考え方を整理するだけでなく、他者の考え方を理解する上でも大切になります。

問題集は、入学後に配布します。大量の問題を一気にやっても力はつきません。授業で学んだところを日々少しずつノートにやっていくようにしましょう。また、難問集に手を出すことよりも、1、2年生の間は考える力を育むことと確実な基礎力を身につけることを勧めます。参考書については、入学前に慌てて入手する必要はありません。授業が始まってから担当の教員に相談してください。

【推薦図書】

矢野健太郎「すばらしい数学者たち」（新潮文庫）小川洋子「博士の愛した数式」（新潮社）沖方丁「天地明察」（角川書店）
宇沢弘文「好きになる数学入門 1 方程式を解く一代数」（岩波書店）宇沢弘文「好きになる数学入門 2 図形を考える－幾何」（岩波書店）
理 科

<生物基礎・地学基礎>

この二つの科目を通して、比較的身近な生物のことや、われわれの住む地球や宇宙のことを学ぶ。中学校理科の第2分野に相当する内容と考えるとよいであろう。授業で扱う内容やテーマは、すでに知っていることも多いかもしれない。しかし、知っていることと理解していることとは別である。例えば地層については、小学生でも知っているし、観察することはできる。その観察結果から読み取らなければならないことは、高校生と小学生で同じであるはずはない。もう知っているからと油断していると、本来、学習しなければならないことを見誤ることになるので、注意が必要である。

是非、今までの学習だけで満足することなく、高校生にふさわしい学習をして欲しい。そのためには、先入観を捨てて、観察や実習に真剣に取り組み、得られたデータを基に、科学的に考察をするようにしていくことが大切である。両科目を通じて課される課題やレポートは、慣れるまではこなしていくのが大変だと思うが、一つ一つ取り組んでいく中で得られるものは、とても大きなものである。あきらめずに着実に取り組んでいてほしい。

なお両科目の学習を踏まえて、2年生では実験を中心とした物理基礎・化学基礎を学習していくことになる。
【留意点】
具体的な学習については新学期になってから行うので、十分にリフレッシュして英気を養ってもらいたい。例えば、野山の草花や星空を眺めるのもよいだろう。あるいは、新聞や科学雑誌を読んだり、興味・関心のある博物館の展示などを見たりするのもよいだろう。いわゆる学習参考書や問題集等は入学前に購入する必要はない。

【推薦図書】
特に、具体的な書名をあげることはしないが、岩波ジュニア新書や講談社のブルーバックス等から、生物や地球・宇宙に関係する本をそれぞれ1冊ずつ読んでみよう。

保健体育

本校では体育実技の授業を通して、単なる技能向上だけでなく、豊かな心と健やかな身体育成を目指し指導している。礼節を重んじ、決められたルールを遵守しつつ、受講種目の得手不得手に関係なく、常に学習意欲を持って取り組み、より高い次元での「スポーツの楽しさ」を追求して行ってほしい。
選択授業の完成を目指すカリキュラムにおいて、「リーダーシップ性」「安全留意」「協力姿勢」「思いやる心」をしっかりと身につけながら、充実した活動を自らの手で作り上げ、ひいては生涯スポーツへと繋げていくことを期待している。

また保健の授業では、単なる基礎知識の理解だけでなく、得られた情報を日常の生活に活かす応用力も身につけてほしい。幅広い分野に関わる内容だけに、将来の人生設計へ大いに役立つものと考えている。
【留意点】運動不足からスムーズな授業展開へと結びつかないケースも少なくないので、本日より適度な運動を日常生活に取り入れ、規則正しい生活を送り、学校生活に備えてくれることを強く望む。

芸 術

芸術は「美」を追求・表現しようとする人間の活動である。そのためには、単なる知識や技能の習得のみならず、「美」に対する感性を磨き、育てることが大切である。自分が選択した領域はもちろんのこと、日常生活の中にある様々な芸術活動に対して、幅広く興味関心を持ち、視野を広げて欲しい。科目ごとの具体的な内容については、授業開始時に説明がある。

英 語

学習上の留意点については、最初の授業で担当の教員より説明がある。高校の英語学習は中学英語で築いた土台の上に積み重ねられていく。中学時代に使用した教科書（巻末を含む）、参考書などを、入学までにもう一度しっかりと確認してほしい。また、各個人の習熟度に合わせて、NHK ラジオ講座やBBCをはじめとしたニュースのpodcastを聴いてみること、洋書を読んでみること、字幕なしで映画を見てみることなどを勧める。

情 報

「情報」では、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指している。そのためには、「情報」に興味を持って毎回の授業に主体的に参加するとともに、修得した知識及び技能を、探究活動や理科などの他教科において、積極的に活用することを期待する。
なお、学習の進め方や科目の具体的な内容については、授業開始時に説明を行う。

探究活動（SSH 探究基礎、SSH 探究、発展 SSH 探究）

本校の総合的な探究の時間は、約2年間（選択すれば3年間）をかけて、課題研究を行う。すべての生徒が、自らテーマを設定し、さまざまな探究活動を通して、成果をまとめ、論文として提出する。そして、多くの生徒は、外部での発表も行っている。この授業では、単なる知識や技術を身に付けるだけでなく、自ら考え、行動することを重視している。特に、高度科学・技術社会の課題を発見する力、科学的プロセスを踏んで問題解決する力を育成することが目標である。

1年生で実施する「SSH 探究基礎（1単位必修）」は、月1回程度の土曜日午前中（1～4限）に設定している。1年生では、課題研究の方法や研究倫理など、課題研究を進める上で必要なスキルを学習するとともに、1年間かけて主に2年生で取り組むテーマを考えていく。

2年生で実施する「SSH 探究（2単位必修）」は、月1回程度の土曜日と毎週1時間を設定している。2年生では、各自が設定したテーマに基づいて、グループ分けがなされ、グループごとに、探究活動を進めていく。秋にはポスターによる中間発表会を行い、最終的に論文にまとめるとともに、口頭で最終発表会を行う。また、SSH 東京都指定発表会、関東近県SSH 校合同発表会などの外部発表会や、学会の高校生発表会へは積極的に参加している。

3年生では「発展 SSH 探究（1単位選択）」を選択することができ、2年生で実施した探究活動を、さらに深める時間が設定されている。

推薦図書などの指定は行わないが、自分の興味のある分野の本を読み、自らの進路も是非早くから意識してもらいたい。とにかく、自分の興味のある分野を突き詰める姿勢が大切だからである。恐らく突き詰める行為の中に、探究活動のテーマも見つかるものである。探究活動は、是非とも自分自身のために行って欲しいと強く願う。